

科目ナンバリングコード	Tmc1101101	授業科目名	メディア表現史 1		
担当教員名	伊藤 ガビン、メディア表現学部開講責任者				
履修可能開始学年	1年	単位数	1.0単位	授業区分	週間授業
開講年度	2025年度	開講学期	2025年度3Q	開講曜日・講時	金曜3限
主要授業科目	○	クォーター開講科目		セメスター開講科目	

科目分類	メディア表現基盤科目 (必修)	抽選科目		教室	
授業形態種別	講義	授業実施形態	遠隔授業：オンデマンド型(配当されている時間割の時間帯以外にも受講が可能)		
関連するDP(カリキュラム年度2017-2020)					
関連するDP(カリキュラム年度2021-)	DP-1 知識と理解	DP-2 創造的思考と考察	DP-3 技術と表現	DP-4 他者理解と協働	DP-5 社会への関心と行動
関連の有無	●				

科目ナンバリングの説明ページへのリンク	<a href="https://www.kyoto-seika.ac.jp/campuslife/class/numbering.html">https://www.kyoto-seika.ac.jp/campuslife/class/numbering.html</a>	ディプロマポリシー (DP) の説明ページへのリンク	<a href="https://www.kyoto-seika.ac.jp/campuslife/class/matrix.html">https://www.kyoto-seika.ac.jp/campuslife/class/matrix.html</a>
---------------------	---	----------------------------	---

サブタイトル	いま立っている場所から眺めるメディア表現の歴史
授業の目的・到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現とメディアの関係を歴史的側面から理解する</li> <li>・メディアを成り立たせている記録や複製といった技術の基本的な知識を身につける</li> <li>・メディアの歴史的背景を知ることを通じて、表現活動のさらなる可能性を意識できる</li> </ul>
授業の概要	<p>あらゆる表現はメディアを必要とする。従ってこの授業では、広義での表現の全般歴史のと、教養での現代のメディアテクノロジーを使った表現の歴史を学んでいく。</p> <p>まずメディア表現史 1 では、現在進行形で我々が目にしているメディア表現を発端として、そのルーツを探る。単純に歴史を知ることだけに留まらず、なぜこの表現が生まれ発展したのかを理解する。</p>
実務経験／実践的教育	美術教育に長年携わってきた教員が指導する【実務経験／実践的教育】
授業計画	<p>授業各回は、現在身近に接しているメディアを題材に、その歴史を駆け巡る。各回のテーマは、変更されることがある。</p> <p>第1回 はじめに インスタグラムから写真史を遡る  第2回 没入型アトラクションの歴史  第3回 身体と映像  第4回 ゴーグル型メディア  第5回 メディアとしての書籍  第6回 モーショングラフィック  第7回 スクリーンを考える まとめ</p>
授業外学習の指示 (予習・復習・課題等)	<p>単位制度の趣旨に則り、次に示す授業外学習(自学自習)時間が必要です。【1単位につき週あたりに必要な自学自習時間】 クォーター科目：講義・演習 4.5時間、外国語・実習 2.5時間／セメスター科目：講義・演習 2.25時間、外国語・実習 週1.25時間 ※2単位科目の場合は上記を二倍、3単位科目は三倍してください。また、演習科目はカリキュラム年度によって授業時間と自学自習時間の配分が異なりますので、シラバスや科目担当者の授業内での指示に従ってください。この科目では授業外学習として、以下の内容に取り組んでください。</p> <p>授業内で指示された資料の閲覧と、それ関連するミニレポート。</p>
評価方法・評価基準	

出席 ミニレポート 60% 最終課題40%
履修条件・留意点及び受講生に対する要望
授業の基本方針は変わらないが、内容の順番は前後する場合がある。
購入必須テキスト
なし
参考文献・作品等
授業内で案内する
参考WEBサイト（サイト名・URL）